

取扱説明書

防音型発電機

EG20M II

EG25M

EG25M-E

空冷4サイクル・OHVガソリンエンジン

目次	頁
はじめに	1
1. 安全上の注意	2
2. 仕様	5
3. 用途	5
4. 各部の名称	6
5. 保護装置	7
6. 運転方法	8
6-1. 始業前点検	8
6-2. 始動	11
6-3. 停止	14
7. 発電機の操作	14
7-1. 操作	15
7-2. 使用できる機器の容量	15
8. 点検・整備	17
9. 長期保管	22
10. 故障時の対応	24






注意：安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

はじめに

このたびは、新ダイワの防音型発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。
本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
 - 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。
 - 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付してください。
 - 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。
- この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

- | |
|---|
|  危険 ：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。 |
|  注意 ：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的損害が発生する可能性がある場合。 |
| <注意> ：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。 |

- 『 注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1. 安全上の注意

危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

危険：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 出力コンセントに、ピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 運転中は、ドアに施錠し開けないでください。

注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。

注意：目や皮膚の傷害

- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣類などに付着させないでください。
付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。

注意：爆発

- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。

注意：火災

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り、燃料ストレーナーの清掃など、燃料を扱うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。また、燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- 逆火（バックファイヤー）により、吸気口から炎が吹き出る恐れがあります。エアクリーナのカバーおよびエレメント類を外して始動・運転をしないでください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。
- 屋内配線に接続しないでください。（法令でも禁止されています）

注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

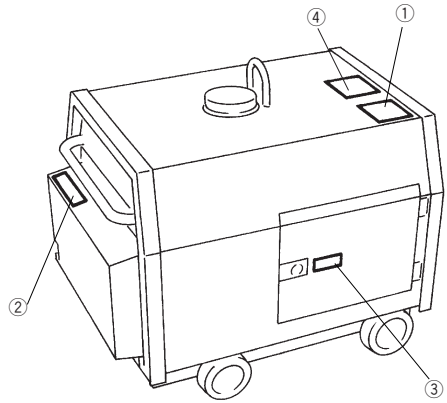
注意：けが

- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。取手で吊り上げると、取手が外れて落下することがあります。
- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪には必ず車輪止めをしてください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。
- 運転中に移動しないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。

■警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- ①排気ガス中毒
(品番19402-00106)
- ②やけど
(品番19402-00112)
- ③高電圧
(品番19402-00140)
- ④火災
(品番19402-00127)



2. 仕様

モデル		EG20MII		EG25M		EG25M-E	
発電機	発電方式	回転界磁型同期発電方式					
	励磁方式	自己励磁					
	電圧調整方式	AVR方式					
	周波数 (Hz)	50	60	50	60	50	60
	相	単相					
	定格出力 (kVA)	1.7	2.0	2.2	2.5	2.2	2.5
	定格電圧 (V)	100					
	定格電流 (A)	17	20	22	25	22	25
	定格回転速度 (min ⁻¹)	3000	3600	3000	3600	3000	3600
	力率	1.0					
定格	連続						
過電流保護	ノーヒューズブレーカー						
エンジン	名称	GA160RDGS		GA180RDGS		GA180RDEGS	
	型式	空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジン					
	連続定格出力 (kW/min ⁻¹ {PS/rpm})	2.4/3000 {3.2/3000}	2.8/3600 {3.8/3600}	2.9/3000 {3.9/3000}	3.2/3600 {4.3/3600}	2.9/3000 {3.9/3000}	3.2/3600 {4.3/3600}
	排気量 (ml)	154		174			
	燃料の種類	無鉛ガソリン					
	潤滑油容量 (L)	0.6					
	始動方式	リコイルスターター式				セル・リコイルスターター式	
	非常停止装置	オイルセンサー					
	燃料タンク規定容量 (L)	10					
	連続定格運転時間 (h)	9	8	7	6	7	6
外形寸法 L×W×H (mm)	667×444×566						
乾燥質量 (kg)	66		68		73		

3. 用途

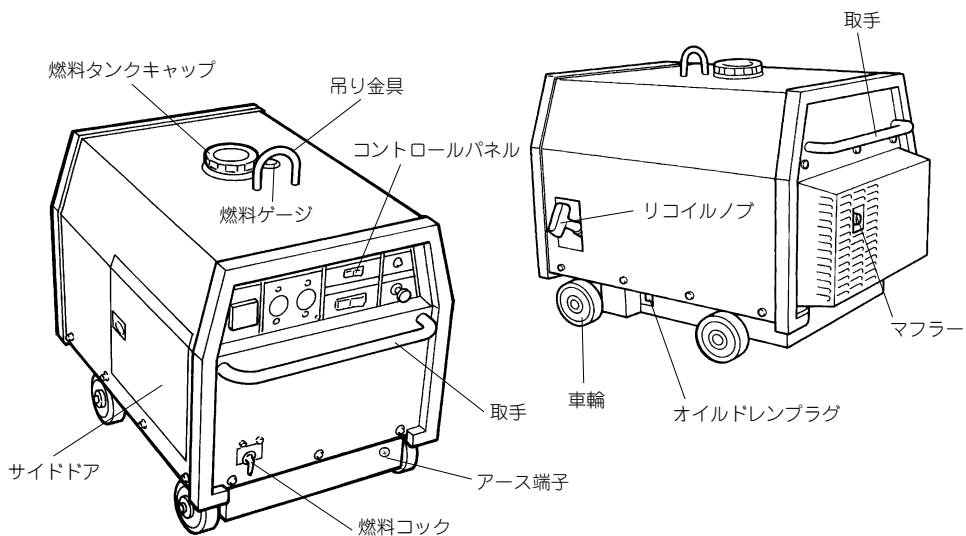
- 電動工具の電源
- 照明機器の電源
- 家電機器の電源



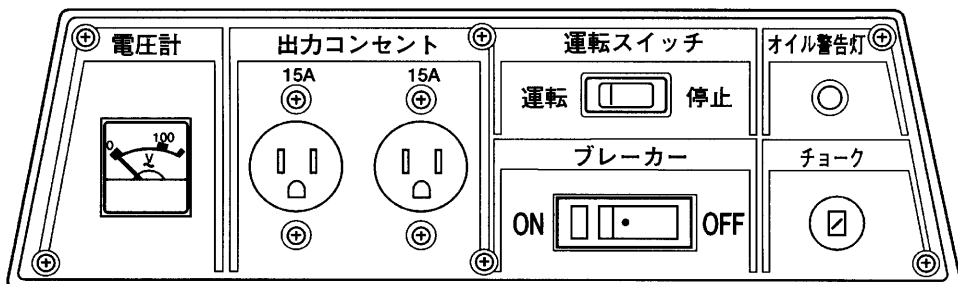
注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

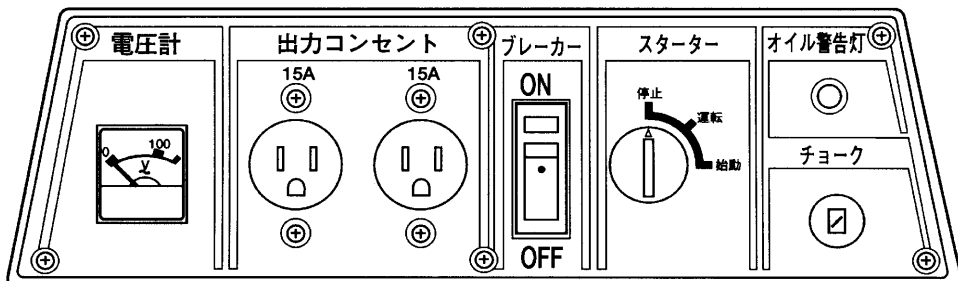
4. 各部の名称



コントロールパネル (EG20MII・EG25M)



コントロールパネル (EG25M-E)



5. 保護装置

(1) オイルセンサー

注意：やけど・けが

- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。
- オイルセンサー作動確認のためエンジンを再始動するときは、使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。

オイルセンサーは、エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼付きを防止する装置です。

オイルセンサーが作動すると、コントロールパネルのオイル警告灯が点滅しながらエンジンが停止します。

エンジン停止後はオイル警告灯も消灯しますので、オイル不足による停止かどうかの確認は、エンジンを再始動させて行ってください。

しばらくして、オイル警告灯が点滅しながらエンジンが停止する場合は、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

<注意>

- オイルセンサーは、オイルの劣化を検知することはできません。エンジンオイルは『点検・整備 (P17)』の項を参照し、定期的に交換してください。

(2) ブレーカー

注意：けが

- ブレーカー作動後、再度『ON』にするときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

電流を取りすぎると、ブレーカーが作動し『OFF』になります。
運転中使用機器が停止した場合は、ブレーカーを点検してください。
ブレーカーが『OFF』になっているときは、次の操作をしてください。

↓1 使用機器のスイッチをすべて切ってください。

↓2 ブレーカーを『ON』にしてください。

<注意>

- 『使用できる機器の容量 (P16)』の項を参照し、電流を取りすぎないように注意して使用してください。

6. 運転方法

6-1. 始業前点検

注意：火災・やけど・けが

- 点検時は、必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

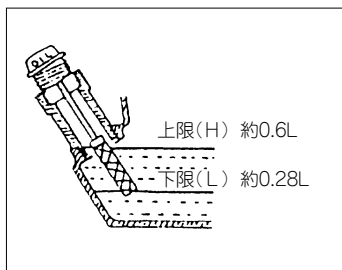
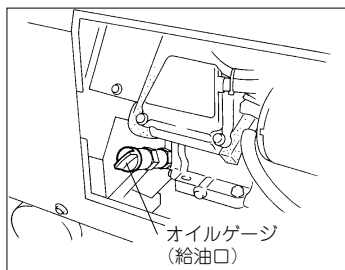
(1) エンジンオイルの点検

オイル量の点検は、本機を水平にし、オイルゲージを給油口に差し込んだ状態で（ねじ込まないで）確認してください。

始業前には、オイルを上限レベル（H）まで給油しておいてください。

<注意>

- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することができません。
- オイル量が下限レベル（L）付近で使用すると、本機の傾斜向きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。



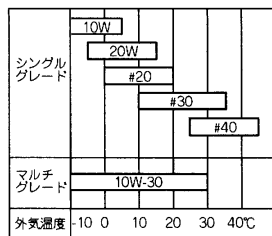
■エンジンオイルの選定

オイルは外気温度に応じて適正な粘度（表を参照）のガソリンエンジン用オイルを使用してください。

<注意>

- オイルの品質は、S C級以上のものを使用してください。
- マルチグレードを使用した場合、外気温度が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

オイル粘度の選定基準



(2) 燃料の点検

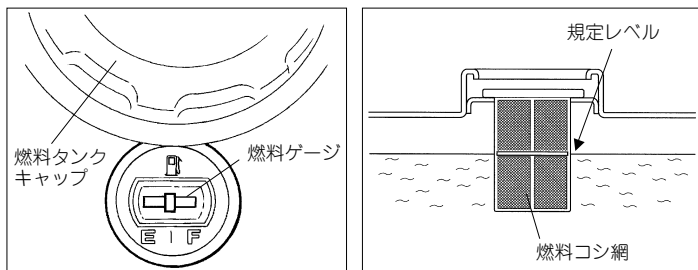
⚠注意：火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料が規定レベル内に十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

<注意>

- 2ヶ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 燃料は、無鉛ガソリンを使用してください。
- 給油時は燃料コックを閉じ、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
- 燃料は規定レベル以上給油しないでください。（規定容量 10L）



(3) 燃料・オイルもれの点検

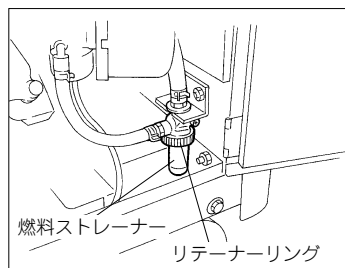
⚠ 注意：火災

- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

燃料コックを開いてサイドドアを開き、燃料配管接続部などからの燃料もれやオイルのもれがないか点検してください。点検後は、必ず燃料コックを閉じてください。

<注意>

- 燃料ストレーナーのリテーナーリングがゆるんでいたら、増し締めしてください。



(4) バッテリーの点検 (EG25M-E)

⚠ 注意：目や皮膚の傷害

- 本機のバッテリーは完全密閉型12Vバッテリーで、液面の点検・補水は不要です。
密封栓は絶対にはずさないでください。
- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣服などに付着させないでください。
付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。

⚠ 注意：爆発

- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。

↓ 端子のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めします。

<注意>

- セルモーターの回転音が、いつもより低くて弱くなったときは充電が必要です。バッテリーの充電方法および交換方法については『バッテリーの充電・交換方法（P20）』を参照してください。

6-2. 始動

⚠ 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 危険：感電

- 運動中は、ドアに施錠し開けないでください。

⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気を歩行者や民家などに向けないでください。

⚠ 注意：火災

- 逆火（バックファイヤー）により、吸気口から炎が吹き出る恐れがあります。エアクリナーのカバーおよびエレメント類を外して始動・運転をしないでください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所に設置してください。

⚠ 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪には必ず車輪止めをしてください。
- 始動前に、必ず使用機器のスイッチを切り、ブレーカーを『OFF』にしてください。

(1) リコイルスターター式
(EG20MII・EG25M・EG25M-E)

1 ブレーカーを『OFF』にします。

2 燃料コックを『開』にします。

3 (EG20MII・EG25M)
運転スイッチを『運転』にします。
(EG25M-E)

スタータースイッチを『運転』にします。

4 チョークノブを引きます。

<注意>

○エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョークの引き具合を加減してください。

5 リコイルノブを重くなるどころ（圧縮点）までゆっくり引き、一度元にもどして一気に引きます。

<注意>

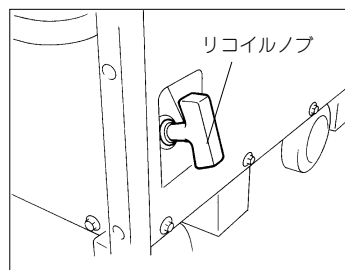
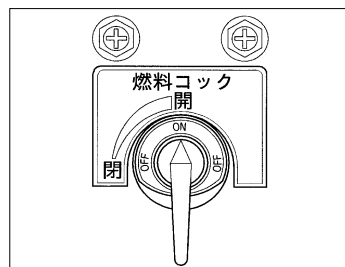
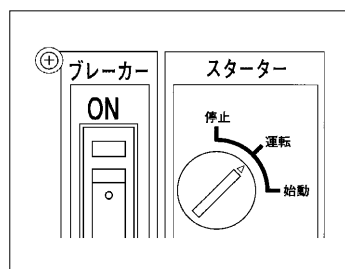
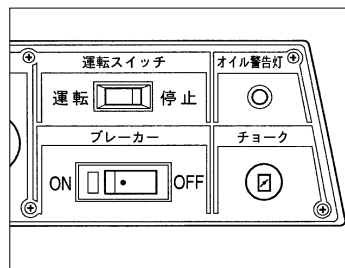
○リコイルノブは、いっぱい引ききらないでください。また、引いた位置から手放さずに、ゆっくりと戻してください。

6 エンジン始動後、チョークをもどします。

<注意>

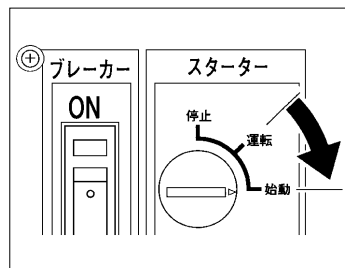
○始動後、すぐにチョークをいっぱいまでもどすとエンストすることがありますので、エンジンの調子に合わせて徐々に戻し、最後には必ず完全にもどした状態にしてください。

7 約5分間、暖機運転をします。



(2) セルスターター式 (EG25M-E)

1. ブレーカーを『OFF』にします。
2. 燃料コックを『開』にします。
3. チョークを引きます。



<注意>

- エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョークの引き具合を加减してください。

4. スタータースイッチを『始動』にすると、セルモーターが起動してエンジンが始動します。

<注意>

- セルモーターは、5秒以上連続してまわさないでください。
- スタータースイッチの操作を繰り返すときは、30秒以上操作間隔をあけてください。

5. エンジンが始動したら、スタータースイッチから手を離してください。

<注意>

- エンジン始動後は、絶対にスタータースイッチを『始動』にしないでください。

6. チョークをもどします。

<注意>

- 始動後、すぐにチョークをいっぱいまでもどすとエンストすることがありますので、エンジンの調子に合わせて徐々にもどし、最後には必ず完全にもどした状態にしてください。

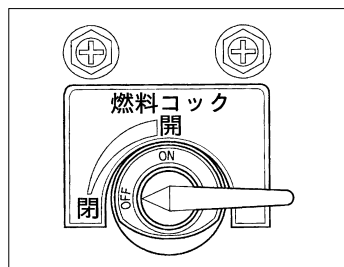
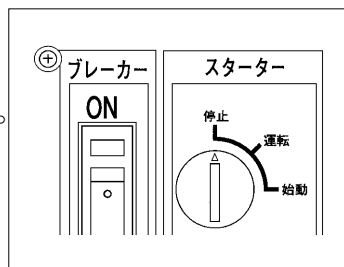
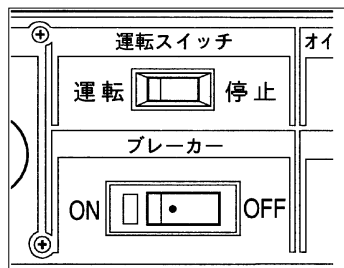
7. 約5分間、暖機運転をします。

6-3. 停止

- 1 ↓ ブレーカーを『OFF』にします。
- 2 ↓ 約3分間、冷機運転をします。
- 3 ↓ (EG20MII・EG25M)
運転スイッチを『停止』にします。
(EG25M-E)
スタータースイッチを『停止』にします。
- 4 ↓ エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。

<注意>

- スイッチを『停止』にしてもエンジンが止まらないときは、そのまま燃料コックを閉じてください。数分後に停止します。
- その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。



7. 発電機の操作

⚠ 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。

⚠ 注意：けが

- 使用機器のスイッチが『OFF』になっているのを確認してから、電源プラグを出力コンセントに差し込んでください。

⚠ 注意：物的損害

- コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用すると、使用機器が故障することがあります。

7-1. 操作

エンジン始動後ブレーカーを『ON』にすれば、出力コンセントから100V交流電源が取り出せます。

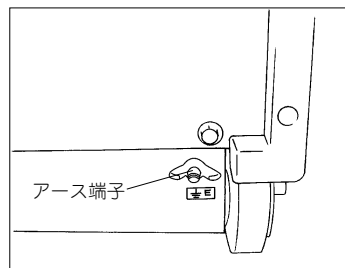
<注意>

- 1個のコンセントから取り出せる電流は、15Aまでです。
- 2個のコンセント合計で定格電流以内で使用してください。
- 運転中は、ブレーカーが『OFF』でも電圧計は100Vを表示します。

■アース端子

本機をアース（接地）する端子です。

使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。



7-2. 使用できる機器の容量

電動工具や家電機器は、その種類・性能によって使用できる容量が異なりますので、次の表（目安）を参照してください。

使用機器	容量の目安 (W:ワット)			
	EG20MII		EG25M/EG25M-E	
	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
白熱電球、電熱器など	1700	2000	2200	2500
蛍光灯、電動工具（整流子モーター）など	800	1000	1100	1200
水銀灯（高力率型）	800	800	800	800
水中ポンプ、コンプレッサーなど（インダクションモーター）	800	800	800	800

※整流子モーター : ブラシがあるモーター

※インダクションモーター : ブラシがないモーター

※容量の数値は、インダクションモーターの場合は『出力』、他の機器は『消費電力』で表示しています。

<注意>

- モーターを使用した機器は、機器の定格より大きい電力を必要とすることがありますので、お求めの販売店か弊社営業所にご相談ください。
- 水中ポンプなどの機器を2台以上使用するときは、機器を同時に起動させないで、1台ずつ起動させてください。
- 水銀灯を消灯した直後に再点灯するときは、約15分間待ってランプが冷えてから点灯してください。
- 水銀灯は、多少チラツキが発生することがあります。

8. 点検・整備

⚠ 危険：感電

- 必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

⚠ 注意：けが

- 必ずエンジンを停止してください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表にしたがって定期的に点検・整備を行ってください。

<注意>

- 始業前点検以外は、専門技術者が行ってください。
- 表中の●印はお求めの販売店か弊社営業所に申し付けてください。

項 目		始業前点検	50時間ごと	200時間ごと	500時間ごと
1	バッテリー端子の締付点検	○			
2	エンジンオイルの点検・給油	○			
3	エンジンオイルの交換	第1回目 (20時間目)	第2回目以降 ○		
4	燃料ストレーナーの点検・清掃	○ (水、ゴミ)		○ (清掃)	
5	燃料・オイルもれの点検	○			
6	エアクリーナーの清掃・交換		○ (清掃)		○ (交換)
7	スパークプラグの清掃		○		
8	スパークプラグの調整			○	
9	吸排気弁の点検・すり合わせ				●
10	燃焼室内の清掃				●
11	オーバーホール				●
12	カーボンブラシの点検				●

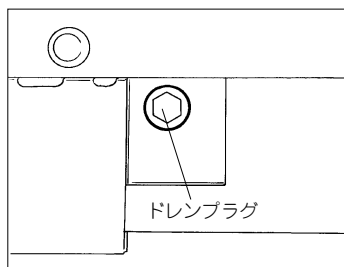
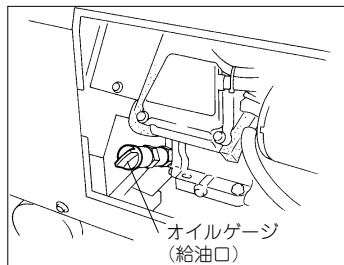
<注意>

- 燃料パイプや防振ゴムは1年ごとに交換してください。
- 交換部品は、必ず純正品を使用してください。

(1) エンジンオイルの交換

初 回	20時間目
2回目以降	50時間ごと

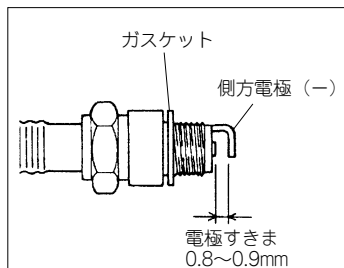
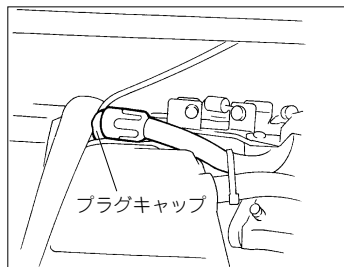
- ↓ サイドドアを開けます。
- ↓ オイルゲージをはずします。
- ↓ ドレンプラグをはずして、エンジンオイルを抜きます。
- ↓ ドレンプラグを締め付けます。
- ↓ エンジンオイルを上限レベル（H）まで入れ、オイルゲージを締め付けます。



(2) スパークプラグの清掃と調整

清掃	50時間ごと
調整	200時間ごと

- ↓ サイドドアを開けます。
- ↓ プラグキャップと、その下のゴムカバーを抜き取ります。
- ↓ プラグレンチでスパークプラグをはずします。
- ↓ スパークプラグが汚れているときは、プラグクリーナーかワイヤーブラシで汚れを落とします。
- ↓ 電極すきまを0.8~0.9mmに調整します。



<注意>

○プラグは『NGK BPR5ES』を使用してください。

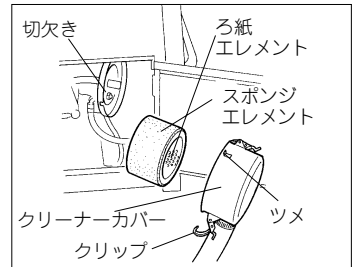
(3) エアクリーナーの清掃

清掃	50時間ごと
交換	500時間ごと

<注意>

○汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となりますので、ホコリの多い場所で使用するときは早めに清掃してください。

- ↓1 サイドドアを開けます。
- ↓2 クリップ2ケをはずし、エレメントと一緒にクリーナーカバーを取り出します。
- ↓3 スポンジエレメントをガソリンで洗い、乾燥させます。
- ↓4 ろ紙エレメントを手で軽くたたき、ホコリを落とします。



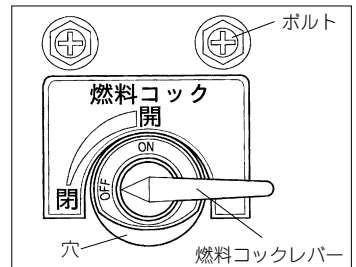
<注意>

○取り付けるときは、クリーナーカバーのツメが取付部の切欠きに合うように位置決めしてください。

(4) 燃料ストレーナーの清掃

清掃	200時間ごと
----	---------

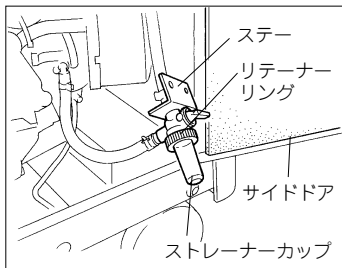
- ↓1 燃料コックを『閉』にします。
- ↓2 燃料コックの上のボルト2本をはずします。
- ↓3 燃料コックレバーを穴から本機内部に押し込みます。
- ↓4 サイドドアを開けます。



5. ストレーナーをステーごとサイドドアの外に取り出します。

6. リテーナーリングを左へまわし、ストレーナーカップをはずします。

7. カップ内の水やゴミを捨て、コシ網に付着しているゴミを取り除いた後、ガソリンで洗います。



8. リテーナーリングを燃料もれのないようにしっかり締め付けます。

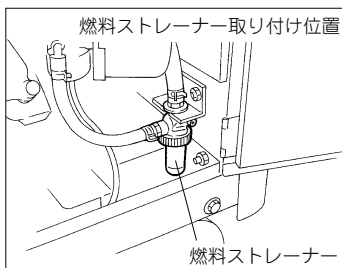
<注意>

- ストレーナーカップを取り付けるとき、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してください。

9. 元の位置に取り付けます。

<注意>

- 取り付け後は、燃料コックを『開』にして燃料もれがないことを確認し、確認後は『閉』にしてください。



(5) バッテリーの充電・交換方法

⚠ 注意：目や皮膚の傷害

- 本機のバッテリーは完全密閉型12Vバッテリーで、液面の点検・補水は不要です。
密閉栓は絶対にはずさないでください。
- バッテリー液には希硫酸が含まれていますので、目・皮膚・衣服などに付着させないでください。
付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。

⚠ 注意：爆発

- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。
- バッテリーの充電は、風通しのよいところで行ってください。

■バッテリーの充電方法

<注意>

- 充電器は、12V二輪シール型バッテリー専用の充電器を使用してください。
- 充電コードの接続は、『+』『-』の極性を間違えないでください。
- 上記の要領で充電しても、セルモーターの回転音が弱いときはバッテリーの寿命ですので、新品と交換してください。

バッテリーの充電は次の手順で行ってください。

- 1 『-』側ケーブルをはずします。(必ず『-』側を先にはずしてください。)
- 2 『+』側ケーブルをはずします。
- 3 バッテリー固定バンドをはずします。
- 4 バッテリーを引き出します。(端子を本機に接触させないでください。)
- 5 充電器の『-』側コードをバッテリーの『-』側端子に接続します。
- 6 充電器の『+』側コードをバッテリーの『+』側端子に接続します。
- 7 表1の条件に従って充電します。

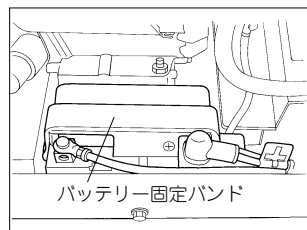


表1. 充電条件

標準	0.6A×5～10時間
急速	3A×1時間

- 8 充電が終了したら、バッテリーを逆の手順で本機に取り付けます。(必ず『+』側ケーブルを先に取り付けてください。)

■バッテリーの交換方法

↓1 『バッテリーの充電方法』に従ってバッテリーをはずします。
(必ず『-』側ケーブルを先にはずしてください。)

↓2 新品のバッテリーを逆の手順で本機に取り付けます。
(必ず『+』側ケーブルを先に取り付けてください。)

<注意>

- バッテリーケーブルの接続は、『+』『-』の極性を間違えないでください。
- バッテリーは『ユアサ YTX7L-BS』を使用してください。

9. 長期保管



危険：感電

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



注意：けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



注意：火災・やけど

- 火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから整備を行ってください。

本機を2ヶ月以上使用しないときは、次の手順にしたがって整備を行ってください。

- ↓1 『燃料ストレーナーの清掃』の手順にしたがってストレーナーカップをはずした後、燃料コックを『開』にして燃料タンク内の燃料を全部抜きます。
- ↓2 燃料コックを『閉』にし、リテーナーリングをしっかり締め付けてからストレーナーを元の位置に取り付けます。
- ↓3 キャブレターの燃料ドレンビスをゆるめてキャブレター内の燃料を全部抜きます。

<注意>

- キャブレター内に長期間燃料を入れたまま放置すると、始動不良や回転不調などを起こす原因となります。

- ↓4 キャブレターの燃料ドレンビスを締め付けます。

- ↓5 エンジンオイルを交換します。

- ↓6 スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを約5ml注入します。

- ↓7 リコイルノブをゆっくり数回引きます。

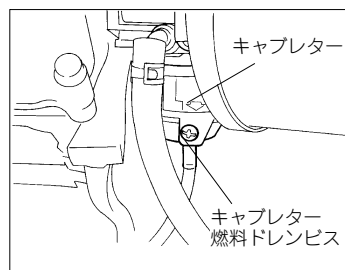
- ↓8 スパークプラグを取り付けます。

- ↓9 リコイルノブを重くなるまでゆっくり引き、元にもどします。

- ↓10 エアクリーナーを清掃します。

- ↓11 バッテリーを取りはずします。(必ず『-』側ケーブルを先にはずします。取り付けるときは、必ず『+』側を先に取り付けます。)

- ↓12 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーをかけて保管します。



<注意>

- 取りはずしたバッテリーは、換気のよい火気のない、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 取りはずしたバッテリーは、月1回程度補充電を行ってください。

10. 故障時の対応

危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。

注意：けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。

注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。
点検しても正常にならないときは、お求めの販売店が弊社営業所に修理を申し付けてください。

症 状	推定原因	処 置
セルモーターが起動しない (EG25M-E)	1. バッテリーあがり 2. バッテリーの劣化	1. バッテリーを充電する 2. バッテリーを交換する
エンジンが始動しない	1. 燃料コック『閉』 2. 燃料不足 3. 燃料に水やゴミが混入	1. 燃料コックを『開』にする 2. 燃料を給油する 3. 燃料タンク・燃料ストレーナーの水抜きと清掃
エンジンがすぐ停止する	1. オイルセンサー作動	1. オイルを給油する
使用機器が作動しない	1. ブレーカー『OFF』 2. 使用機器の電流が定格を越えている	1. ブレーカーを『ON』にする 2. 『使用できる機器の容量』を参考にする

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-6181

やまびこ産業機械株式会社

〒731-3167 広島市安佐南区大塚西6丁目2-11 Tel 082-849-2005 (代)

やまびこ北海道株式会社

〒004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20 Tel 011-891-2249 (代)

やまびこ東北株式会社

〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50 Tel 022-288-0511 (代)

やまびこ東部株式会社

〒198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1091 (代)

やまびこ中部株式会社

〒452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39 Tel 052-502-4111 (代)

やまびこ西部株式会社

〒701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159 Tel 086-296-5911 (代)

やまびこ九州株式会社

〒816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7 Tel 092-573-5361 (代)

やまびこレンテックス株式会社

〒198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-6777 (代)

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。